

ヨコハマ新発見 vol.1

新シリーズ

日本初の「在横浜パラオ共和国名誉総領事館」 2015年1月5日、横浜市中区に開館 名誉総領事に藤木幸太氏が任命されました

今号から始まる新企画「ヨコハマ新発見」では、2015年1月5日に開館した横浜パラオ共和国名誉総領事館(横浜市中区の藤木企業株式会社内)を紹介。名誉総領事に任命された藤木幸太氏(藤木企業代表取締役)と在日パラオ共和国大使館のフランシス・マリウル・マツタロウ特命全権大使に、パラオの魅力や名誉総領事館開館の経緯などを伺います。

大統領から直接、就任の依頼を受けた

「何よりもパラオを訪れ、まずはその魅力を体感してほしい」。ダイビングが大好きな藤木幸太氏は10数年前、友人に勧められて初めてパラオを訪問。以来、すっかりとパラオのダイビングスポットの虜になってしまいました。



名誉総領事の認証を受ける藤木氏

2014年、その年もパラオを訪れた藤木氏は幸運にもパラオ共和国大統領と面会する機会を得ました。側近から「藤木氏の熱烈なパラオファン」を聞いていた大統領は、その場で「名誉総領事を引き受けてくれませんか」と声を掛けてきました。藤木氏は「イエスもノーもない。分かりましたとしか答えられませんでした」と振り返ります。その後、2015年の天皇皇后両陛下パラオ訪問を前に、大統領が来日した折に認証式が開かれ、正式に在横浜パラオ共和国名誉総領事に任命されました。「あつという間でしたね。後から聞いた話ですが、日本で初めての名誉総領事館開館でした」

と声を掛けてきました。藤木氏は「イエスもノーもない。分かりましたとしか答えられませんでした」と振り返ります。その後、2015年の天皇皇后両陛下パラオ訪問を前に、大統領が来日した折に認証式が開かれ、正式に在横浜パラオ共和国名誉総領事に任命されました。「あつという間でしたね。後から聞いた話ですが、日本で初めての名誉総領事館開館でした」

「日本」を肌で感じる国・パラオ

藤木氏はパラオの魅力をご話します。「パラオの人々は30数年間にわたり日本、だったという歴史もあり、日本人に敬意

天皇皇后両陛下がパラオで宿泊された海上保安庁の巡視船。横浜港に停泊



を抱いています。とりわけ、日本人としてパラオで生まれた世代の人々は多くの日本人にパラオを訪れてほしいと思っています。それはなぜなのでしょう。日本人は町づくりをはじめ、教育制度の構築などに真摯に取り組ん



在横浜パラオ共和国名誉総領事に任命された藤木幸太氏

でくれました。パラオを素晴らしい民族国家にするという情熱を持っていました」。藤木氏は誰からも、そう聞かされました。「そういう話を聞ける国は、ほかにはありませんね」。英語とともに公用語になっているパラオ語には「日本語」がいっぱい入っています。藤木氏はある日、小学生たちが町の掃除をしている光景を目にしました。「えらいね。ボランティアですか」と声を掛けると、子どもたちはキョトンとして「キンロウホウシです」と答えたそうです。「これでは、どちらが日本人か分からないよね」と笑います。女性たちの井戸端会議にも出合いました。なんと、楽しそうに「花札」に興じていたそうです。「今の日本では、ほほあり得ません。昔の日本が残っている、肌で感じる国。それがパラオです」

ぜひ足を運んでほしい常夏の国

パラオの島々はすべて内海のため、素晴らしい自然環境に囲まれています。「安全で海水が透き通っているダイビングスポットがたくさんあります。しかも、町中からモーターボートに



乗って10数分で行けます。世界には数多くのダイビングスポットがありますが、こんなに短時間で行ける場所はありませぬ」と、自然環境の素晴らしさを説きます。藤木氏は「こうした自然環境の中に、日本があるパラオ。日本人を思い起こしてくれる常夏の国・パラオ。ぜひ、足を運んでいただきたい」と強調しました。

在日パラオ共和国大使館
フランシス・マリウル・マツタロウ
特命全権大使に聞く

「パラオ共和国」の魅力

日本から意外と近い「常夏の楽園」

一パラオは日本から意外に近いようです。どのようなところなのでしょう。



パラオ共和国大使館
フランシス・マリウル・マツタロウ特命全権大使

この「よこはま港」が発刊される10月1日は、パラオ共和国の21回目の独立記念日、および日本との国交樹立21周年にあたり、記念すべき日に本国が紹介されることをとてもありがたく、そして大変うれしく思います。本国は東京の真

南に位置し、日本との時差はまったくありません。

現在、二つの航空便があります。一つはデルタ航空で、成田空港からパラオ空港まで約4時間の直行便です。もう一つはユナイテッド航空で、こちらはグアム空港経由(乗継)となり、グアムとパラオは約1時間20分で結ばれています。また、日本航空も直行チャーター便でパラオと日本を結んでいます。日本から約4時間という航空時間は、本国にとって大きな利点です。



世界遺産に登録されているロックアイランド

観光スポットが盛りだくさん

一パラオは、海、ビーチ、世界遺産エリアなど観光スポットが盛りだくさんと聞いています。

本国は、観光が最も大きな産業です。中でも、日本は本国の観光産業の3分の1のマーケットシェアを占め、昨年は3万8610人の日本人(日本国籍)が訪れました。パラオ観光には、海・島・太陽の三つの要素があります。ダイビングスポットについては、東京ビッグサイトで毎年開催される「マリンダイビングフェア」(マリンダイビングマガジン主催)での世界のダイビングスポットの人気投票で、3年連続で「No.1」に選ばれています。ダイビングスポットだけではなく、世界遺産のロックアイランド、泥パックを体験できるミルクウエー、そしてユニークなジェリーフィッシュ種レイクなどの観光スポットがたくさんあります。

パラオの国旗の由来



黄色の円は「幸運」を表す満月を、青色は「幸運」を連れてくる海をイメージ。海から「宝」がやってくる、その海は世界の国々とつながっているという考えに由来します。



一パラオと日本とのつながりをお聞かせください。

日本との関係は、歴史、政治、文化といった面で、温かい友好関係を続けてきましたし、今後も続けていきたいと思っています。長い歴史の中で、多彩な文化を日本から受け入れてきました。かつ井やすし、お好み焼きなどの日本食がたくさんありますし、日本人の一般的な名前が「好ましい名前」として子どもにつけられます。言語では数多くの「日本語」がパラオ語となっています。大統領は英語では「プレジデント」ですがパラオ語では「ダイトウリョウ」、習慣は英語で「カスタム」ですがパラオ語では「シュウカン」などです。



ロングビーチで海を満喫

横浜のココが好き&メッセージ

一横浜の好きなところを教えてください。

横浜ランドマークタワーの近くでのディナーの後、ランドマークタワーの展望フロアから見た夜景は素晴らしかったです。ヨコハマベイサイドマリーナ主催のヨットレースの懇親会で、(藤木企業がスポンサーとなり、参加者全員を対象に)ベアでパラオに招待する福引きの「引き役」を2年続けて務めました。これも光栄なことだと思っています。

一最後に、読者へのメッセージをお願いします。

パラオと横浜は、とても密度の高い関係にあります。名誉総領事館の開館でさらに親密な関係ができると思います。今後の可能性として、投資やビジネス、貿易、人的交流などを実現できたらと思います。魅力たっぷりのパラオにぜひ、いらっしゃってください。